

「沖縄の100年後の未来を想像してみよう」全国高文連研究大会講演 宮沢和史さん



12月1日・2日と第34回全国高等学校文化連盟研究大会 沖縄大会に参加しました。創造性豊かな文化芸術活動を目指すことを目的とした研究を柱に各専門部のこれまでの成果発表課題提起等がされました。特に沖縄という豊かな自然と文化に育まれた郷土芸能専門部の発表は、地域との深い関わりと歴史の中で生徒たちが継承者となり活動している様子を目にし、考えさせられる部分が多くある大会でした。記念講演はシンガーソングライターの宮沢和史さん。ご存じのとおり【島唄】をつくられた THE BOOM のボーカリスト。島唄の発表から30年、今も琉球文化を次世代につなげ残すためにアーカイブ制作、現地の継承者を自分の足でめぐり映像で記録を残す活動をされている沖縄芸術大学の先生でもあります。島唄の制作に至った経緯、ひめゆり資料館で出会った方から得たインスピレーション、最後はご自身による三線による「島唄」が披露されその思いと音色に涙が溢れてしまいました。しかし、宮沢さんは「戦争の悲劇を描きたかった歌ではない」と断言されました。歴史の先の未来に沖縄文化を残す使命をご自身が感じられていたように拝見しました。

島唄よ 風に乗り 鳥とともに 海を渡れ

島唄よ 風に乗り 届けておくれ 私の愛を

海よ 宇宙よ 神よ いのちよ このまま永遠に夕風を100年後の未来へ、琉球文化が継続されるよう、沖縄の皆さんの強い思いを感じた大会でした。長野県高文連、そして私を含めた「今を生きる皆さん」が、100年後の未来に何が残せるかを想定して、文化活動を含め日々のさまざまな活動を継続できるといいなと深く熱い思いを胸にした2日間でした。

また12月7日は10年間継続している「こんにちはは県議会です～高校生との意見交換会～」に参加。本年度は本校生の参加はありませんでしたが、県内8校18名の実行委員生徒が長野県議の皆さんと交流、9月に実施した交流会での協議を県議に提言しました。高校生のプレゼン力は10年前に比べ各段に飛躍しています。問を発信するこのような機会を利用しましょう



全国高文連研究大会沖縄大会 琉球文化に触れた2日間



「こんにちはは県議会です」高校生との意見交流会
こちらは「校則について」熱い議論が繰り広げられました